

多様な地域資源を活用して オンリーワンのまちづくり

はじめに

江別市は、石狩平野の中央部に位置し、市街地の北東部には水量豊かな石狩川が流れ、札幌市と隣接する南西部には2000kmを超える世界有数の平地原生林「道立野幌森林公園」が広がるなど、水と緑に恵まれた自然環境豊かなまちです。

また、道央圏における中核機能都市として機能しており、札幌市へのアクセスはJRで約20分の圏内にあります。市内には北海道縦貫自動車道、国道12号線、国道275号線が通り、さらには新たな交通ネットワークとして新千歳空港と石狩湾を結ぶ国道337号線の整備が進むなど、物流拠点としても注目を集めています。

市内にある4つの大学と2つの短期大学部には、約1万2800

人の学生と500人の教員が在籍しています。このほか、道立食品加工研究センターや道立工業試験場野幌分場、民間の北海道電力(株)総合研究所などの各種研究機関が集積しており、優秀な人材確保はもちろん、多方面にわたる研究活動が活発に行われています。

やきもののまち江別

本市には、明治以降100有余年にわたるれんが製造の歴史があり、現在は道内唯一の生産地として全国一の生産量を誇っています。市内各所に点在する公共施設、ランドマークとしてのバス停留所や民家、倉庫などれんが建造物が数多く現存し、まちを訪れる人たちに本市ならではの景観と安らぎを与えています。

このような本市固有の財産を生

かしたまちづくりへの取り組みは、広く市民に広がってきているほか、行政としても歴史的れんが建造物を保存活用するなど、市民と産学官が連携した取り組みを進めてきました。その結果、平成16年には「江別のれんが」が「北海道遺産」として認定されました。

また、毎年7月上旬に行われる「えべつやきもの市」は、江別を代表するイベントとして期間中約10万人の人流でにぎわうなど、江別は「やきもののまち」というイメージが定着しています。

江別ブランド

「江別小麦めん」への取り組み

平成10年、江別産小麦の普及・振興を図る目的で、「江別麦の会」が設立されました。

同会は江別産小麦「ハルユタカ」の



江別産小麦「ハルユタカ」を原料とした「江別小麦めん」

を実現することで、地域経済の活性化を図ることができました。

この初めての取り組みは、農林水産省と経済産業省が地域経済の発展を図るために進める「農商工連携88選」として平成20年4月に選定され、全国的にその事例が紹介されました。

現在、市内約20の飲食店と和・洋・中の約100種類のメニューが提供されるなど、江別小麦めんは本市を代表するブランドとして成長しました。

未来への投資

本市は、江別・野幌・大麻の3地区により市民の生活圏が形成されていますが、近年、商業、業務施設の集積が進んでいる野幌駅を

中心とした約240haの区域を本市の新しい中心市街地として、都市交通の円滑化や地域の活性化に資する施策を重点的に実施しています。平成18年度から「江別の顔づくり事業」を実施し、将来にわたり持続可能な経済社会の構築と安全で快適な都市生活の充実を図っています。

この事業の核となる鉄道高架化と連続立体交差事業は、JR函館本線で分断された野幌地区の南北市街地の一体化を図り、都市生活に必要な機能を充実させ、都市活動の拠点とすることを目的としたものであります。野幌駅を中心としたにぎわいのある都心づくりを目指すため、着実な取り組みを進めています。

エコなまちづくり

今や地球環境の保全は世界共通のテーマであり、低炭素社会の実現は避けて通れない喫緊の課題です。

本市においては、太陽光発電システムの実証事業に参加し、市役所庁舎壁面や市内小学校に設置した太陽光パネルにより、積雪寒冷地における太陽光発電の優位性の検証を行いました。そのほか、公

プロフィール

- ◆ 面積 187・57km²
- ◆ 人口 12万522人
- ◆ 世帯数 5万3343世帯

〔将来都市像〕人が輝く共生のまち
〔まちの特徴〕4大学2短大が立地し、各種研究機関などが集積するなど文教都市としての特性を有している。

〔特産品〕れんが、江別小麦めん、ヤツメウナギ、町村牛乳、煉化もち、小麦かりんとう、大豆、プロッコリー



江別市長
三好 昇

おわりに

国・地方を通じ危機的な財政状況の中で、少子高齢化・人口減少時代の到来など行政を取り巻く環境は一層厳しい状況にあります。

このような中で本市の将来都市像である「人が輝く共生のまち」の

実現に向け、平成21年4月から第5次江別市総合計画後期基本計画がスタートし、7月には市民と共にまちづくりを進める自治基本条例が施行されました。

これからは本市の個性や特性を最大限に生かすとともに、今後の分権型社会を意識し、市民の声を聞き議論を重ねて、「江別に住んでよかった」「江別に住み続けたい」と市民誰もが誇れる魅力あるまちづくりを進めていきたいと思っています。



市役所庁舎に設置された太陽光発電パネル



※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

自然と共にはぐくまれた
郷土の文化と知恵を、未来へつなぐ

はじめに

茅野市は、長野県中部の諏訪盆地の中央に位置し、八ヶ岳の豊かな自然に抱かれた高原都市で、全市域のうち4分の3が森林で、蓼科高原、八ヶ岳などの観光地を抱えています。

この地は、古代から中世にかけては、諏訪地方の政治、経済、交通、文化の中心地として栄え、近代以降は、日本有数の観光地として発展してきました。

特に、四季の美しい変化に富んだ蓼科高原は、映画監督の故小津安二郎氏など多くの文化人に愛されてきました。深い森に囲まれた清涼澄明な環境は、毎年、全国各地から訪れる350万人もの観光客を魅了し、文化の薫り漂う高原リゾートとして発展してきました。

伝統をつなぐ、御柱祭

本年は、数えて7年に一度行われる諏訪大社御柱祭（式年造営御柱大祭）の年です。寅と申の年、諏訪地方は、木やりの声が響き、祭り一色に染まります。この御柱祭は、人力のみで奥山から、縦の太木を切り出し、坂を落とし、川を越え、まち中を引き、社の四隅に建てる勇壮そのものの祭りです。

この御柱祭は平安初期の桓武天皇の時代（781年～806年）に最初の記録があり、起源はさらにさかのぼるものともいわれています。今春また、多くの人々が、いにしえから今をつなぐこの祭りに参加致します。さらに、御柱祭は諏訪大社だけではなく、この地方の各地区にある神社（小宮）でも行われ、一年を通して盛り上がりま

す。どうぞ皆さま、御柱祭にお越しくださいと思います。

歴史をつなぐ

本市の位置する八ヶ岳西南麓地域は、縄文中期には日本列島でも最も人口の集中した地域であったといわれています。

特に、本市では「縄文王国 茅野」のキャッチフレーズのとおり、今から5000年前、縄文文化が華開きました。この時代を代表する国指定特別史跡「尖石遺跡」、国指定史跡「上之段遺跡」「駒形遺跡」など、現在200カ所以上に及ぶ遺跡が発見されています。

また、本市が所蔵する「土偶」（愛称「縄文のビーナス」）は、「縄文時代の精神文化を考える上で傑出した文化遺産」と評価され、平成7年、日本最古の国宝に指定されま



御柱祭の上社山出し（木落し）

さらに平成12年、4000年の眠りから目覚め、「中ッ原遺跡」から仮面土偶（愛称「仮面の女神」）が出土しました。国内最大級の完全な形の土偶でその素晴らしい造形美のため平成18年に国の重要文化財に指定されています。

「ひとがた」をした素焼きの土製品「土偶」の発生は、縄文時代草創期（約1万3000年前）にまでさかのぼります。出産間近の女性の姿を表すもの、伸びやかに両手を

上げるものなど多様な姿かたちをする土偶は「祈りの造形」とも称され、縄文時代の人々の精神世界や信仰の在り方を表す芸術品として、世界的に高い評価を得ています。

こうした評価を受け、イギリスの大英博物館で平成21年9月10日から11月22日まで74日間にわたって、土偶展「THE POWER OF DOG」が開催されました。縄文時代を代表する土偶などが展示され、本市からは「縄文のビーナス」と「仮面の女神」が展示されました。

私もこの土偶展のために渡英しましたが、世界がこの2つの土偶の価値を評価していただいたこと

未来へつなぐ

に対し、大変感激を致しました。

なお、この2つの土偶は帰国後、東京国立博物館で開催された「国宝土偶展」（平成21年12月15日～本年2月21日）にも展示されました。

近年、人と自然との共生をキーワードとして縄文文化の見直しが進んでいます。森や川の恵みに感謝し豊かな時間を生きた縄文文化のルーツに迫ることは、私たちの将来にとって極めて大切なことだと考えています。

私たちの祖先は、こうした自然や風土の中で営みを続け、地域文化や生活様式をつくりだし、持続的な発展を遂げてきました。

本市ではこうしたことを踏まえ、**「縄文プロジェクト」**を平成21年よりスタートさせました。なぜ、今、縄文なのか。私たちは、物質的な豊かさは手にしましたが、心の豊かさやゆとりを実感できないでいるように思います。時代の転換点の中で私たちは、この郷土の誇りである縄文文化とそれを育てた自然に学ぶことにより、現在の生活を見詰め直し、新たな地域社会の創造を目指していきます。



平成12年に中ッ原遺跡（茅野市湖東）から出土した「仮面の女神」（高さ34cm）



昭和61年に棚畑遺跡（茅野市米沢）から出土した「縄文のビーナス」（高さ27cm）

プロフィール



茅野市長
柳平千代一



◆面積 265・88km²
◆人口 5万7255人
◆世帯数 2万2565世帯
〔将来都市像〕人も自然も元気で豊かに躍動する高原都市
〔まちの特徴〕市の重点課題である福祉、環境、教育、国際化、情報化の分野でパートナーシップのまちづくりを進めている。

〔特産品〕寒天、ソバ、みそ、凍り豆腐、セロリ、ダイコン、リンドウ、キク、のこぎり
〔観光〕八ヶ岳、蓼科山、車山高原、蓼科中央高原、蓼科湖、白樺湖、奥蓼科温泉、尖石遺跡、尖石縄文考古館（国宝土偶「縄文のビーナス」）、蓼科高原芸術の森彫刻公園、マリー・ローランサン美術館
〔イベント〕御柱祭（寅年と申年に開催）、どぶろく祭り、上古田の火とぼし、八ヶ岳開山祭、八ヶ岳縄文の里マラソン、茅野市5000年尖石縄文まつり、小津安二郎記念・蓼科高原映画祭、白樺湖氷燈祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

4つの「もつと」で、 草津にさらなる躍動を

はじめに

草津市は、滋賀県の南東部に位置し、日本最大の淡水湖である琵琶湖に面しており、古くから水陸交通の要衝として栄え、江戸時代には、東海道と中山道が分岐・合流する宿場町としてにぎわってきたところです。このことから、市内には史跡草津宿本陣などの歴史遺産が多く残っています。

現在もJR東海道本線が通り、草津駅は県内一の乗降客数となっており、南草津駅につきましても、立命館大学や電機関連企業、大型商業施設などの立地により、利用者のさらなる増加が見込まれています。また、国道1号、京滋バイパス、名神高速道路が通る交通の要衝でもあります。さらに、新名神高速道路の開通により京阪神だ

けでなく中部圏も近郊となり、地理的に恵まれた地方都市として注目されています。

多くの市町村で人口が減少している状況にありますが、本市はこれらの地理的環境にも恵まれていることから、平成21年5月には人口12万人を超え、現在も人口増加を続けています。

「もつと草津」宣言を実行

私は、市長就任時に「もつと草津」宣言と題して4つの政策（もつと安心！」「もつと活力！」「もつと安全！」「もつと透明！」）を掲げ、市民の皆さんが安心して生活できる住みよいまちをつくることをお約束し、日々その実現に向けて取り組んでいます。

1つ目の「もつと安心！」では、人口の増加に伴い、次代を担う子育て

世代が、育児の不安をなくし、安心して子育てができるようにするため、0歳児のおられる家庭を訪問する「すこやか訪問事業」や病後児保育、病児保育を実施しています。また、乳幼児医療費に加え、中学校卒業までの入院医療費について無料化しました。さらに、子どもが輝くまちづくりを目指し、教育分野への予算を強化しています。

2つ目の「もつと活力！」では、「男女共同参画推進条例」の策定、障がい者などのグループホームへの支援を行うほか、高齢者が心豊かに安心して暮らせるよう「草津あんしんいきいきプラン」を策定しました。さらに、交通ネットワーク整備の一つとして、市内の公共交通空白地を走る乗合タクシー「通称…まめバス」の実証運行を実施しています。



一般応募で時代行列にも参加できる「草津宿場まつり」

3つ目の「もつと安全！」では、防犯・防災体制の総点検を実施し、市内での交通事故発生件数、犯罪発生件数の減少に向けた取り組みを行っています。また、国の補助を受け、各市民センターのバリアフリー化を行い、高齢者の社会参加の促進と、協働のまちづくりを展開するための機能の拡充を図りました。

最後の「もつと透明！」では、予算編成過程をはじめとした徹底した情報公開を実施し、市民との情

報共有による市政運営を進めています。また、市民との対話を促進するため、「インターネット市長室」を開設し、市民との対話システムの充実を図っています。

平成21年12月には、市民に判定員として参加いただいた「事業仕分け」を公開実施するなど、行政システム改革にも力を入れて取り組んでいます。

総合計画がスタート

本市では、地域の抱える課題を解決する方策を盛り込み、長期的なまちづくりの方向性を示す第5次総合計画を策定し、平成22年度から取り組んでまいります。今回の総合計画では、「出会いが織りなすふるさと」「元氣」と「うるおい」



天井川として知られる旧草津川の桜並木

のあるまち「草津」を将来像とした基本構想と、それを実現するための基本計画を策定し、マニフェストとの整合を図ることと致しました。また、策定の過程、策定後の評価や進捗において、市民と行政が情報を共有し合って、柔軟な発想で市民が誇れるまちをつくりあげることが目指します。

本年は、時代の大きな変革が求められている年であると思います。経済情勢は大変厳しく、少子高齢社会を迎える中、社会の活力が失われており、将来の不安がますます増大しています。しかし、こうしたときこそピンチはチャンスととらえ、未来をどう切り開いていくのか、草津市として全国規模で考えながら、市民のために何をしていくか、具体的な行動が重要です。

躍動を続ける草津

本市は、「働く」「学ぶ」「遊ぶ」「憩う」など市民生活の多様な広がりに応えられるまちとして、都市機能を充実させながら発展し、知の拠点である立命館大学をはじめ、大企業や中堅企業などには研究開発に携わる多士多才な人材を擁しています。そして、創造性豊かな中

小企業が集積するものづくり都市であり、市内企業は大企業から中小企業に至るまで、高い環境意識を基に独自技術の開発や各種事業を展開しています。

これからも総合計画を軸として、交通の利便性や観光資源、文化遺産、さらには大学を生かしたまちづくりを進めてさらなる活性化に努めるとともに、地域主権の時代を担うことができるよう、職員力を高め、質の高い仕事をしていく体制を整え、市民の皆さんと共に協働のまちづくりを進めていきたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 67・92km²
- ◆ 人口 12万933人
- ◆ 世帯数 4万9287世帯

〔将来都市像〕 出会いが織りなすふるさと「元氣」と「うるおい」のあるまち 草津

〔まちの特徴〕 古くから東海道と中山道の宿場町として栄え、滋賀県を代表する新たな活力と魅力を備えた、美しい琵琶湖と豊かな自然に恵まれた元氣とうるおいのあるまち

〔特産品〕 うばがもち、瓢箪、「あおばな」商品、地酒（道灌・草津の宿・ひょうたん）



草津市長 橋川 渉



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

次世代の「光」で輝く 自然と産業の融合都市

「光」「野球」を軸とした
まちづくり

阿南市は、四国の最東端に位置しており、風光明媚な海岸線を有しています。起伏に富んだ地形と南国情緒溢れる温暖な気候のため、早期米、ハウスミカン、スタチ、シイタケなどの農産物やハモ、ノリ、イセエビなどの海産物に恵まれています。ほかに、色とりどりの数え切れない食材と紺べきの海、緑豊かな山、黄金色にたなびく稲田、透明な川の流れなど、恵まれた「素材が溢れる」まちです。こうした素材に磨きをかけながら、「光」「野球」をキーワードに地域が持つ豊かな自然と程よく調和した産業経済都市を目指しています。

「光」では、空洞化する商店街ににぎわいを取り戻すため、平成14

年に3万個の発光ダイオードの飾り付けから始まったイルミネーションが、今や阿南を代表する一大イベントに成長しました。幻想的なマンダラドームは県外にも貸し出され、郷土PRの一翼を担っています。「光」LED「徳島そして阿南」というイメージが定着するよう、モニユメントの常設化を図り、幅広いPR活動、人材の確保、サポート体制の整備に努めています。



LEDの光り輝く「マンダラドーム」の下で阿波踊り

「野球」では、四国でも有数の設備を誇る「アグリあなんスタジアム」が平成19年にオープンしたのを機に、野球を通じた地域振興を図っています。四国九州アイランドリーグの開催や早起き野球大会、草野球日本一大会のほか、大学野球部の合宿などを積極的に誘致してきました。また、野球観光ツアーと題し、民間企業と行政が協力しながら野球と観光を合わせた企画も展開しています。

さらに、同じ四国東南に位置する高知県室戸市、安芸市との連携による観光振興を目的に、A（阿南）M（室戸）A（安芸）地域連携協定を平成20年5月に締結しました。

これは、3市が県境を越えてそれぞれが持つ特徴を結び付け、複合的な魅力をアピールし、広域的かつ戦略的な観光・地域振興を



県内外から60歳以上の野球愛好者が約400人集う西日本生涯選層野球大会

指すものです。現在、観光資源の新たな掘り起こしや観光客のニーズ調査、A M Aブランドの確立、県外客の誘致活動など、広域のメリットを生かした事業を実施しているところです。

平成21年11月に実施した大阪発のモニターツアーでは、近くでも行ったことのなかった四国東南部を体験した驚きと期待の声が多く聞かれました。本市では1万体を超える招き猫が奉納された「お松大権現」やLEDの歴史が分かる「光のまちステーションプラザ」「ハモ料理」が好評でした。

こうした試みを重ね、3市広域のメリットが最大限発揮できる観光プランの構築と市民レベルでの活発な交流を目指しています。また、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映に合わせて、来年1月10日までの予定で安芸市にサテライト会場が設置されています。会場には、本市のLEDイルミネーションやA M A紹介コーナーがあり、全国にPRする絶好のチャンスととらえています。

こうした取り組みを地場産業の育成、振興につなげる方策を模索しております。地元企業や阿南工業高等専門学校と連携し、貸工場、貸研究所などの部屋を置くインキュベーションセンターの設立といった取り組みや大阪大学大学院との協定による「関西からみた阿南」の視点に加え、21世紀の光源と



勝負事や受験にご利益があるとされる「お松大権現（通称：猫神さん）」の招き猫

いわれるLED世界トップの生産企業がある地の利を生かし、産業振興、魅力あるまちづくりをさらに推進していきたいと考えています。

安全・安心の基盤づくり

近い将来、高い確率で発生が予測されている南海、東南海地震をはじめとするあらゆる災害から市民の生命、身体、財産を守るために、災害に強い安全で安心して暮らせるまちづくりを積極的に進めています。

教育施設や避難公共施設の耐震補強対策を順次実施してきましたが、さらに3中学校の改築を計画しています。

地震だけでなく、津波による甚大な被害も予測されていることから、現在、3地区で一時避難場所の機能を有する防災公園の整備も進めています。災害時の応急対策施設として備蓄倉庫や耐震性貯水槽を備え、平常時には市民の憩いの場となる公園です。

また、防災の拠点となる市庁舎は築40年が過ぎており、平成26年の完成を目指し、建て替え計画を進めています。そのほか、環境に配慮した新たなごみ処理施設の建

設、公共下水道や市周辺部の情報通信基盤の整備など、社会基盤の整備にかかわる事業が進行中です。

結びに

本年は、本市が変わるターニングポイントとして、市の総合力が問われる新たなスタートの年と位置付けています。これまで比較的税収が堅調だったことから、こうした大型の事業に備え財政調整基

プロフィール

- ◆ 面積 279.39 km²
- ◆ 人口 7万8306人
- ◆ 世帯数 2万9048世帯

〔将来都市像〕「住みたい」「住みやすい」「住んでよかった」と市民が実感できるまち

〔まちの特徴〕「日本の渚百選」北の臨海水浴場、「四国一の清流」那賀川などの美しい山河と日本を代表するLED、製紙、電力関連企業が立地する自然と産業が融和したまち



阿南市長 岩浅嘉仁



〔特産品〕ハウスミカン、タケノコ、ハモ、シイタケ、チリメン
〔観光〕観光地引き網（捕れた魚をそのまま料理）、お松大権現（日本三大怪猫伝）、太龍寺（西の高野）四国八十八力所中最大級のスケール
〔イベント〕阿南の夏まつり、ルミナスタウンプロジェクト、活竹祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

文化と伝統きらめく 安心と活力あるまちづくり

はじめに

NHKドラマ「坂の上の雲」のロケ地になった「三角西港」や神秘的な火「不知火」で知られる宇城市は、平成17年1月15日、三角町・不知火町・松橋町・小川町・豊野町の5町合併により誕生しました。

本市は、熊本県のほぼ中央、県都熊本市と県南の工業都市八代市のほぼ中間に位置しています。西は上天草市、東は美里町、甲佐町に接するバラエティに富んだ自然景観と都市機能を併せ持った、バランスの取れた豊かな地域です。

市民手作りの花いっぱい運動「宇城市フラワーフェスタ」

平成13年度から岡岳総合運動公園で盛大に開催されています、花の祭典「宇城市フラワーフェスタ」

は、4月で10年目を迎えます。会場は200本余りの桜が咲き乱れ、西側斜面には中高生がデザインした花文字が出迎えます。入り口には花生産者自らが作った花のアーチが、会場内には華やかなオブジェが飾られています。また、花の寄せ植え体験コーナー、ガーデニング教室や親子スケッチ大会などが開催され、多くの人が参加体験され楽しんでおります。さらに、会場内では、本市の花々を特価で販売するほか、特産品や、新鮮な農産物、加工品などの展示販売を行っております。

花のまちづくり運動を進める中、市内各地域には185の管理花壇ができ、地域で管理を行い、その数は毎年増え続けております。

今後も「花いっぱい運動」は、市民による、市民手作りの花の祭典

「宇城市フラワーフェスタ」として、訪れる方々に心に残る楽しさと感動を与えるものと思えます。

「三角西港」を世界遺産に！

平成21年1月に、三角西港を含む「九州・山口の近代化産業遺産群」がユネスコの世界遺産暫定リストに記載されました。現在、明治期の建造物調査、文献などの調査を行い、世界遺産本登録に向けて準備を行っています。

三角西港は、明治20年（1887年）に開港し、宮城県の野蒜港、福井県の三国港と共に国の直轄として建設された明治3大築港の一つです。オランダ人水理工師ムルドルの指導の下で建設された近代的な港湾であり、明治22年には国の特別輸出港に指定され、石炭、米、麦などを中心に海外へ輸出されま



春を彩る花の祭典「宇城市フラワーフェスタ」

現在も築港当時の姿をとどめており、明治の港が完全な形で現存するのは日本でここだけです。

最近では、ドラマや映画の撮影も頻繁に行われ、明治の面影が残る場所として高く評価されています。

三角西港では、ボランティアガイドによる案内や、小泉八雲が愛した「浦島屋」での喫茶、明治の海運倉庫を利用したレストランなど、憩いの場として多くの方々にお越しいただいております。また、三

角西港に隣接する場所に、浮棧橋を建設する準備を進めており、完成すると三角西港を海から眺められ、天草のイルカウォッチングなどへのクルージングが楽しめるようになります。

築港120余年を経て、再び脚光を浴びてきた三角西港を、市民の皆さまと共に世界遺産登録を目指し、世界の宝として後世に残していきたいと考えています。

国指定名勝

「不知火及び水島」の保存

平成20年2月、古くから神秘的な火として語り伝えられてきた「不知火（不知火現象）」が「不知火及び水



明治の面影が残る三角西港埠頭

島」という名称で、国の名勝に指定されました。日本書紀には「景行天皇が巡幸の際、八代の水島で天皇にわき水を献上し、その後闇夜を航行中、不知火の神秘的な火（不知火）に導かれ無事上陸できた。」と記されています。近年、沿岸の明かりや不知火海を取り巻く環境の変化により、不知火の灯りが見えづらくなっています。このため、本市では今後、不知火の「保存管理計画」を策定し、この神秘的な灯りを守り伝えていくための環境整備を進めていきます。

手作り寸劇

（パートナーフェスティバル）

本市は、男女共同参画社会づくりに向けた取り組みが盛んです。平成19年3月に男女共同参画計画を策定、10月に男女共同参画推進条例を施行し、11月は男女共同参画都市を宣言しました。

その活動の中心的役割を担ってきたのが、市民公募による男女共同参画推進懇話会です。20年度からは男女共同参画社会推進委員会と名称を変え、さらなる活動を展開しています。定例会をはじめ、啓発イベント「パートナークラッシュ・

フェスティバル」の企画・準備・運営、研修会への参加など、活動は多岐にわたります。

中でも、メンバーの持ち味を存分に発揮するのが、フェスティバルの寸劇です。男女共同参画に関する課題・問題点をテーマに、台本作り、役者、演出のすべてをこなし、忙しい合間を縫って猛練習

プロフィール

- ◆ 面積 188・56 km²
- ◆ 人口 6万3282人
- ◆ 世帯数 2万2396世帯

〔将来都市像〕美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた未来に輝くフロンティアシティ

〔まちの特徴〕国道3号が市中心部を縦断し、西は天草、東は宮崎県への結節点という恵まれた地理的状況にあります。豊かな農産物を産出する田園の風景と、「不知火」のロマンと文化に彩られた自然景観、そして都市機能を併せ持つ地域です。

〔特産品〕デコポン、ショウガ、レン



宇城市長 篠崎鐵男



コン、干し柿、白玉粉、シクラメン、洋ラン、アラジャク、トクアミ（トツカン）

〔観光〕三角西港、岡岳総合運動公園、萩尾大溜池、不知火温泉「ロマンの湯」、アグリパーク豊野、三角駅前フィッシューマンズワーフ「ラ・ガール」、平原公園

〔イベント〕宇城市フラワーフェスタ、伝統文化芸能まつり、不知火「海の火まつり」、みすみ港まつり、食とモノの祭典、ちびっこトライアスロン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。